

令和7年度 江戸川区立大杉第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○ よく考え　すすんで学ぶ子 ○ 思いやりのある子 ○ 明るく　元気な子		「学校大好き、先生大好き、友達大好き」 豊かな心、確かな学力、一人一人が輝く杉二の子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○東京都及び江戸川区教育委員会の目標、方針を受け、新しい教育、新しい時代に合った「笑顔にあふれ、活力ある」学校を目指す。 ○進んで学習に取り組み、学びの楽しさを味わうことのできる子。豊かな人間関係をつくり、安心した学校生活を送ることができる子。 ○互いに認め合い、協力し合う教職員集団。家庭や地域との連携を図り、教育活動の向上に努める教職員集団。教育公務員としての職務を自覚し、子供、保護者地域から信頼される教職員。
前年度までの本校の現状	成果	国語科の研究を中心とした学力向上に向けた取組の成果が見られた。全国学力・学習状況調査の結果、6年生では国語でA層児童が16.4%、算数で7.7%増えた。また、体力向上に向けた取組みはなわ跳びチャレンジウィークや体育大会に向けた朝練習等を始め、充実させることができた。			課題	「江戸川区学力調査」の結果、3・4・5年生の国語・算数における基礎基本の定着が十分でないことが分かった。現在の学力向上の取組に加え、さらなる取組を考える必要がある。また、体力向上のための取組を充実させたことで、児童はよく遊び、体を動かしているものの成果が数値として表れていない。引き続き、体力向上に向けた取組を充実させる必要がある。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	・「誰一人取り残さないための学力向上に向けたアクションプラン」の実施・改善やEDOスクの実施などによる指導の充実と教師の授業力の向上	・朝の時間の算数学習時間である「スギニタイム」「算達タイム」の設定。 ・読解力を高めるための時間である「杉二よむYOMUタイム」の設定。 ・家庭への学習時間の充実、望ましい生活習慣を啓発する「スギニGMキャンペーン」の実施。	・4・5年生江戸川区学力定着度調査平均75%以上。 ・2年生・3年生・6年生東京ベージャックドリル平均75%以上。	B		B	・江戸川区学力定着度調査、東京ベージャックドリルの結果は数値目標に到達していなかった。 ・目標達成のために「スギニタム」や「算達タイム」等の活動の内容の見直しを図り、取組を改善している。 ・杉二よむYOMUタイムは児童の実態に応じた実施の仕方を検討していく必要がある。	B	・家庭への学習時間の充実、望ましい生活習慣を啓発する「スギニGMキャンペーン」の実施は価値のある活動である。学習習慣をつけることが学力向上につながると思う。					
		・年間5回の研究授業や校内研修を行うことによる教師の指導力の向上。 ・年間10回の若手研修を行い、若手教員の指導力・学校運営貢献力の向上。	・12月に行う児童アンケート「授業が分かるか」「授業が楽しいか」の結果、肯定的回答80%以上。	B		B	・1学期中に主幹教諭と主任教諭による師範授業を行い。教師の指導力向上に向けた取り組みを充実させている。国語部、算数部、道徳部、体育部の4部会それぞれで教科への理解を深めるべく研究を行っている。	B	・研究授業をすることや若手の先生の研修をすることは、教師の指導力の向上につながる。学校全体で力を入れて取り組む必要があると感じている。					
	○読書科の更なる充実	・週2回の朝読書の実施。 ・2つの多読賞の設定。（3年生～6年生1万ページ・全学年60冊） ・月1回の図書ボランティアによる読み聞かせ。	・多読賞の受賞者100名以上。 ・校内アンケート「読書が好きです」への肯定的意見が全校児童の70%以上。	B		B	・朝読書の取組の徹底や図書ボランティアとの連携を充実させることで、読書科のさらなる充実を図っている。 ・多読賞に向けた取組には担任の声掛けが重要であると感じている。	B	・図書ボランティアが読み聞かせや図書室の飾りつけを行っていることで児童が本に親しむ環境づくりができています。					
体力の向上	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・校内研究として、江戸川区体育部と連携しての体力を向上させる運動遊びの実技研修を実施。 ・持久走記録会に向けて、年間20回の朝マラソン、2週間程度のマラソン週間の実施。	・体力テストの男女全ての領域で東京都の平均、もしくはそれを超える数値の達成。	B		B	・体力テストの結果、各学年男女合わせ96種目のうち東京都の平均を越えたのは44種目であった。総合得点での平均越えは50%であった。取り組みの成果が見られる。	A	・体力向上に向けた取組は体育の授業だけでなく、休み時間にもしたほうがよい。子供たちは休み時間に校庭でよく遊んでいるので体力向上ができてると思う。					
	○なわ跳びチャレンジを通しての児童の基礎体力向上に向けた取組の充実	・学期に1回のなわ跳びウィークの実施。 ・なわ跳びの技を紹介する機会の設定。 ・スモールステップでなわ跳びを進めるためのなわ跳びカードの作成。	・なわとびカード上級達成児童50人以上。	B		B	・1学期に第1回のなわ跳びウィークを行った。教師と児童が共になわ跳びの活動に取り組むことでなわ跳びへの関心を高めることができた。児童の技能や意欲ががより一層高まるよう指導をする。 ・児童の様子や実施状況に合わせてカードを見直していくとよい。	B	・なわ跳びの取組自体はよい。今後は、児童の技能を向上させられるように先生方に指導・支援をしてほしい。					
	○多様な運動経験をさせ、児童の運動への愛好的な態度を高める。	・スケート教室の実施。 ・ポッチャ体験の実施。 ・区体育大会の様子を知らせることによる陸上競技への興味の喚起。	・校内アンケート「運動は好きですか」への肯定的意見90%以上。	A		A	・水泳の授業実施回数を増やすために、5月中旬から水泳授業を実施した。全ての学年で10時間以上の授業時間を確保し、水泳の技能を高め、運動への愛好的な態度を高めた。	B	・水泳の早期実施は猛暑の影響を考えるととてもよい取組であった。今後とも気候等を考えた改善をする必要がある。					
共生社会教育の実現に向	○地域や外部団体とかわる教育活動の推進	・区役所の方と未来の江戸川区について考える活動の実施。 ・ふれあいウェンズディの実施。 ・見守り隊の実施。 ・6年生による讀場見学の実施。	・地域人材の授業もしくは、外部団体による授業を各学年年間2回程度行う。	A		A	・月に1回のふれあいウェンズデー、週に1回程度の見守り隊を実施する等、積極的に地域の人と関わる時間を設定した。また、児童は盆踊り講師、子供未来館の指導者等、様々な人と関わる機会を楽しんでいる様子だった。	A	・地域の人と関わることは児童の教育にとってとてもよい。今後も多くの人と関わってほしい。PTAも、ぜひ関わっていきたい。					
	○英語と親しむ機会の充実	・ALTと英語講師で行う外国語及び外国語活動の充実。 ・外国人講師と一日を過ごす、イングリッシュキャラバンの実施。	・校内アンケート「英語の学習は好きですか」への肯定的意見80%以上。	B		B	・5・6年生で週2回、3・4年生で週1回の英語講師による英語の授業を実施した。また、週1回はALTと関わる機会を設定し、児童が英語と親しめるようにした。	B	・英語は今後ますます必要となる。そのためにALTの先生と関わる時間はこれからも増やしていったほしい。					

令和7年度 江戸川区立大杉第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○ よく考え　すすんで学ぶ子 ○ 思いやりのある子 ○ 明るく　元気な子		「学校大好き、先生大好き、友達大好き」 豊かな心、確かな学力、一人一人が輝く杉二の子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○東京都及び江戸川区教育委員会の目標、方針を受け、新しい教育、新しい時代に合った「笑顔にあふれ、活力ある」学校を目指す。 ○進んで学習に取り組み、学びの楽しさを味わうことのできる子。豊かな人間関係をつくり、安心した学校生活を送ることができる子。 ○互いに認め合い、協力し合う教職員集団。家庭や地域との連携を図り、教育活動の向上に努める教職員集団。教育公務員としての職務を自覚し、子供、保護者地域から信頼される教職員。
前年度までの本校の現状	成果	国語科の研究を中心とした学力向上に向けた取組の成果が見られた。全国学力・学習状況調査の結果、6年生では国語でA層児童が16.4%、算数で7.7%増えた。また、体力向上に向けた取組みはなわ跳びチャレンジウィークや体育大会に向けた朝練習等を始め、充実させることができた。			課題	「江戸川区学力調査」の結果、3・4・5年生の国語・算数における基礎基本の定着が十分でないことが分かった。現在の学力向上の取組に加え、さらなる取組を考える必要がある。また、体力向上のための取組を充実させたことで、児童はよく遊び、体を動かしているものの成果が数値として表れていない。引き続き、体力向上に向けた取組を充実させる必要がある。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
けた	○副籍交流、共同学習の実施	・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施。	・学期に1回以上の副籍交流の実施、及び副籍交流の情報発信。	B		B	鹿本学園の児童との、読み聞かせでの交流を行い、活動内容を充実させている。	B	・副籍交流は共生社会実現に向けて大切である。					

令和7年度 江戸川区立大杉第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○ よく考え　すすんで学ぶ子 ○ 思いやりのある子 ○ 明るく　元気な子		「学校大好き、先生大好き、友達大好き」 豊かな心、確かな学力、一人一人が輝く杉二の子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○東京都及び江戸川区教育委員会の目標、方針を受け、新しい教育、新しい時代に合った「笑顔にあふれ、活力ある」学校を目指す。 ○進んで学習に取り組み、学びの楽しさを味わうことのできる子。豊かな人間関係をつくり、安心した学校生活を送ることができる子。 ○互いに認め合い、協力し合う教職員集団。家庭や地域との連携を図り、教育活動の向上に努める教職員集団。教育公務員としての職務を自覚し、子供、保護者地域から信頼される教職員。
前年度までの本校の現状	成果	国語科の研究を中心とした学力向上に向けた取組の成果が見られた。全国学力・学習状況調査の結果、6年生では国語でA層児童が16.4%、算数で7.7%増えた。また、体力向上に向けた取組みはなわ跳びチャレンジウィークや体育大会に向けた朝練習等を始め、充実させることができた。			課題	「江戸川区学力調査」の結果、3・4・5年生の国語・算数における基礎基本の定着が十分でないことが分かった。現在の学力向上の取組に加え、さらなる取組を考える必要がある。また、体力向上のための取組を充実させたことで、児童はよく遊び、体を動かしているものの成果が数値として表れていない。引き続き、体力向上に向けた取組を充実させる必要がある。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成	・委員会活動や係・当番活動、異学年交流などの充実。 ・長期休業前に生活指導劇を代表委員会が主体となって行うなど、安全で健康的な生活に向けた啓発活動の推進。	・年間6回のなかよし班活動の実施。 ・年間10回程度の児童集会の実施。	B		B	・本校児童の多くが係活動に意欲的であり、すすんで仕事を行っている。 ・時期や起きた出来事に応じた生活指導ができている。小松川警察による万引きの講話等は非常によかった。	B	・なかよし班活動や児童集会は高学年が責任をもつために大切である。引き続き取り組んでほしい。					
	L－Gateの活用	・L－Gateでの児童の実態把握に基づいた指導の推進。	・L－Gateにおける日々のアンケート、その日の気分が、「良い」「とても良い」60%以上。	B		B	・L－Gateの習慣は身に付き、毎日、確実に実施できている。やらされているだけの児童もいるので、アンケートの意味を再度、周知する必要がある。	B	・L－Gateで児童の実態把握を毎日行う活動はいじめや不登校への対策として効果的である。					
	○不登校傾向の児童のためのワンステップルームの活用促進	・ワンステップルームの保護者への理解啓発。 ・ワンステップルーム活用の推進。 ・ワンステップルームを活用しての対象者と担任の面談や登校意欲を喚起する取組の充実。	・対象者にワンステップルーム登校を推進することで、学校、他機関と関わっていない児童0を目指す。	A		A	・ワンステップルームができることで不登校傾向の児童と学級をつなぐことができるようになった。 ・ワンステップルームの先生と指導内容について打ち合わせる時間がつくれると、きめ細かい指導ができる。	B	・ワンステップルームを設置することで、学校に来ることができる児童が増えたのはよいことである。					
	○教育相談の強化	・スクールカウンセラーとの連携強化。 ・スクールカウンセラーによる5年生全員面談。 ・担任による全員面談の推奨。	・SCと関連する児童の情報共有を確実に行う。 ・年間3回のいじめアンケートの実施。	A		A	・スクールカウンセラーとの全員面談と情報共有を通して、児童の実態を適切に把握することができた。 ・いじめアンケートとそれに伴う面談は各担任と一人一人の児童とがじっくり話す機会となった。	A	・SCとの全員面談やいじめアンケートは児童のことを教師が知るためにも大切なことである。					
学校（園）の地域社会に開かれたの実現	○学校（園）ホームページの充実等	・学校ホームページの頻繁な更新。 ・学校要覧の内容変更。	・1日1回のホームページの更新の実施。 ・6月中に学校要覧の内容を改善。	A		A	・ホームページは情報担当を中心に見やすく改善している。また、学校日記も日々更新している。	A	・ホームページは日々更新されていて、学校から発信されている日記を見ることを楽しみにしている。					
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施。	・学期に1回行う、学校評議員会での学校関係者評価の実施。	B		B	・ICTを活用して、アンケートができるようになり、集約が容易になった。年間2回の教員アンケートにより、評価が詳細になり、変容も見とれるようになった。	B	・昨年度から、スマートフォンやタブレット端末で回答できるようになり、便利になった。					
	○Tetorを活用しての保護者への情報発信推進	・学校便り、学年便り等の印刷物のTetorでの配信。	・月に1回のTetorで配信の確実な実施。	B		B	・学校便り・学年便り等の印刷物はTetoruでの配信にほぼ移行できた。 ・緊急の情報提供にもTetoruを活用し、大雨の際の引き取りの時にも活用した。	B	・印刷物を減らすことは環境にも配慮がありよいことだと思う。					
教育の特色ある展開	○人と環境と関わる教育の推進	・ヤゴトープづくりの実施。 ・ヤゴ救出作戦。 ・ふれあい給食の実施。 ・なかよし班活動の実施。	児童アンケート「地域の人と関わりながら学習することは好きですか？」に対する肯定的意見80%以上。	A		A	・ヤゴ救出作戦やヤゴトープ作りは子供未来館の方の支援を受けながら実施できた。また、児童だけでなく教員も未来館に学びに行く活動を通し、多くの人と関わる教育が推進できている。	A	・ヤゴトープづくりやヤゴ救出作戦といった、自然と関わる機会をつくることは児童にとってよい経験になる。					
	○SDGsを意識した学習単元の充実	・花いっぱい作戦の実施。 ・学校周辺、公園、新中川の河川敷などでのボランティア清掃の実施（全学年）。	・児童アンケート「自然を大切にすることができていますか？」に対する肯定的回答80%以上。	A		A	・4年生・5年生でボランティア清掃を実施した。花いっぱい活動も例年通り実施し、児童のSDGsへの意識を高める活動ができている。	A	・ボランティア清掃等の活動をもっと広めて、地域に貢献してほしいと思う。					
	○働き方改革の推進	・月1回の定時退勤日の設定。	・残業時間50時間以下の教員達成率100%。	B		B	・9月現在数値目標が達成できた月はない。引き続き改善する必要がある。	B	・働き方改革は今後も推進したほうがよい。					